

施工事例



金沢市Y様邸

金沢市Y様邸をご紹介します。
Y様邸はセカンドハウスとして計画された平屋の住まいです。水廻り以外ワンルームの広い空間となっています。

玄関からホールを抜けると、スタイルリッシュなキッチンが目の前に現れます。内装はすべて無垢材で床はシカモア、壁・天井はパイン材を使用しています。ログハウス風な仕上がりです。

部屋を仕切ることができるよう梁や壁の位置を考慮しています。
今はオープンなので、生活スタイルに合わせて設えるのも樂しみですね！

照明スイッチも洗面ボールも水栓もすべてY様自身が選んでこられたこだわりのものです。とっても素敵です！これからY様がDIYされた棚等が設置されます。



Y様ありがとうございました！

体感ハウス『K'house(ケースハウス)』に行こう！

◆見所◆

- 1)とやまの木を贅沢に使用
- 2)『枠の内』の再生
- 3)ソーラーサーキットの住み心地
- 4)耐震性に優れたケス構法



事前予約でいつでもご案内いたします！TEL:0766-69-8703



株式会社アキ ホームページ

(URL) <http://www.k-aki.com>

富山県古民家再生協会

(URL) <http://www.kominka-toyama.org/>

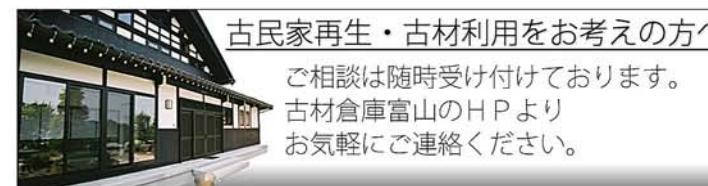
にゃん太郎ブログ

(URL) http://blog.livedoor.jp/nyantaro_since2010/

一級建築士事務所登録 富山県知事登録 第(7)861号

AKII 株式会社アキ

〒932-0862 小矢部市五郎丸62
(TEL)0766-69-8703 (FAX)0766-69-8653



古民家再生・古材利用をお考えの方へ
ご相談は隨時受け付けております。
古材倉庫富山のHPより
お気軽にご連絡ください。

AKII 株式会社アキ

1.施工事例

『金沢市Y様邸』

2.加藤社長のつぶやき 第72回
『ジャパトラ』

3.特集
『食料品の収納のコツ』



9月とはいえ残暑が厳しい今日この頃。
季節の変わり目なので、
くれぐれもご自愛くださいね。

今月号の特集は
住まいのスッキリ収納術です。

住まいの スッキリ!! “収納”術

少しの
工夫で
おうちが
快適!

普段使いの食料品が備蓄食料に!

食料品の収納のコツ

一度、用意するとそのままになりがちな防災グッズ。気がつくと水や食料品の期限が切れていた、ということも……。実は、普段使いの食料品も、保管方法を工夫すれば“非常時の食料”として活用できます。そこで、手軽にできる「ローリングストック」という収納の仕方をご紹介したいと思います。

文字通り、ストック（備蓄）したものをローリング（回転）させる方法で、ストックしているモノを食べたら食べた分だけ補充し、常にストックを持っておく、というやり方です。非常食はバリエーションが少なく、必ずしもおいしいとは限りません。しかし、レトルトカレーやツナ・サバ・豆・フルーツなどの缶詰、インスタント食品など、日ごろから食べ慣れているものなら、“まさかの時”でも安心です。日持ちがするものなら、ストックしておいても期限を切らして捨てるようなことにはならず、うまくローリングさせられるでしょう。

また、収納で気をつけたいのは、食料品という理由で、キッチンにすべて置かないこと。「すぐ使うもの」と「ストック品」で分けて考えます。すぐ使うものは調理台の下の引き出しなどにしまうと、必要な時にサッと取り出せるので、調理の動作がスムーズに。ストック品は「どこに何があるかが把握でき、必要になった時にすぐに取り出せる」ことが大事。納戸や吊戸棚などの多少、不便な場所に置いても問題ありません。空き箱や100円均一のかごなどを使って仕切りを作り、立てて収納すれば、食材同士が重ならず、出し入れのしやすさもアップ。さらに、カレー やパスタソースなどのパックは、上の方に賞味期限を書き足し、その面が見えるように立てて収納すれば、在庫の確認と一緒に賞味期限もチェックできるので一石二鳥です。



イラスト：福井典子

野村高子 Home&Family代表。整理収納アドバイザー。親・子の片づけマスターインストラクター。自宅を公開しての収納セミナーや、お客様のお宅へ伺ってのお片づけレッスンを実施。ホームオーガナイザー、ライフオーガナイザー2級。オフィシャルブログ：<http://ameblo.jp/nomunomuuk/>

加藤社長のつぶやき

第72回

『ジャパトラ』



『ジャパトラ』という情報誌があります。古材や古民家だけではなく、広く日本各地に残る伝統文化に関する情報誌です。

その中に作家・エッセイストの森久美子さんが書いておられる、連載小説『木は生きている』があります。

2018年7月号 第十話 世界にひとつだけの古材 1 実は…恥ずかしながら、この7月号からの三話は私を題材にしていただいている小説となっています。

手元に届いたジャパトラを早速読ませていただきながら、その当時を思い出して懐かしいやらドキドキするやら…改めて色々体感させていただきました。

森さんの素敵な文章に感謝ですし、古川じゅんこさんのとても素敵な挿絵にも感謝です。
…なんか、とってもありがとうございます。

皆さんも、もしよろしければ読んでみてください。
「手元はない！」という方はお知らせくださいね。
私の手元にある限り、お届けいたします。



次回へつづく！

※バックナンバーをご希望の方は株アキまで